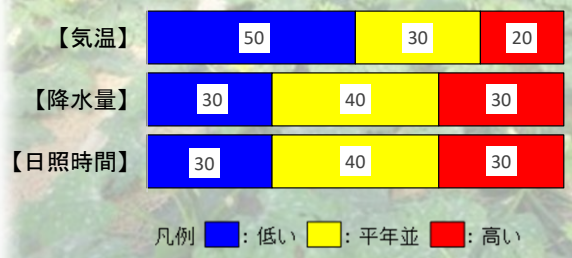
JA全農ちば 営農情報集 2022 6

今月の情報

1. 水稲　当面の対策について
2. 園芸野菜　病害虫防除情報
3. 果樹(ナシ)病害虫防除情報
4. ニンニク　新産地づくりとしての取組み
5. スマート農業ツールの活用
6. 安全な農作物生産の取組みについて～食中毒対策～

６月の気象について（気象庁６/２発表　長期予報（１か月）から）

６月は気温がやや低くなる（特に上旬）予報となっています。また、梅雨入りして降水が多くなると害虫だけでなく病害の発生も懸念されます。このほか、近年は気象の変化が極端化しているため、急な高温などに注意し、適切な温度管理を実施しましょう。



（長期予報は毎週木曜 14 時 30 分に発表されます。週予報とともに確認し今後の栽培管理の計画を立てましょう）

全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています

アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照ください

ＨＰ：＜https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx＞または「アピネス」で検索

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

営農情報

令和４年６月

水稲　当面の対策について

ＪＡ全農ちば
営農支援部

１．はじめに

移植後の生育は、全体的に「草丈は長く、茎数は少ない」状況です。４月下旬以降は低温・日照不足・多雨の影響が出ている圃場が散見されます。

長期予報では６月は気温がやや低めの予報となっています。また、梅雨時期となるため、生育ステージを確認し作業が遅れないよう注意しましょう。

２．近年の高温障害対策に！

～中間追肥：けい酸加里の使用について～

（１）効　　果：けい酸と加里が同時に吸収されることにより、根の活力が高まり登熟向上につながります。また、受光体勢が良くなるので、光合成を促進させる効果もあります。

（２）施用時期：中干し直前（田植後３５～４５日）

（３）施 用 量：２０～４０kg／１０ａ

３．分げつ数をチェックして中干しを実施しましょう

中干しが出来ず、湛水状態を続けると酸素不足によって、土壌の還元化が進んで根が老化し、幼穂形成期以降の登熟期間の養分吸収が悪くなります。

根が老化するとケイ酸、リン酸、加里などの吸収が抑制されるので、稲の体が軟弱気味になります。

「中干し」の効果は…

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

・無効分げつの抑制と下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲にします。
・土壌中に酸素を供給し、根を活性化させます。
・機械作業に適した土壌硬度を確保します。

茎数が確保された圃場では速やかに「中干し」を実施しましょう。特にコシヒカリは倒伏防止のために遅れずに実施しましょう。

表１　品種別の中干し開始の目安

品　種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壌質	粘質
ふさおとめ	４月20日	480 本/㎡（27 本/株）		440 本/㎡（24 本/株）
ふさこがね	４月20日	360 本/㎡（20 本/株）		
コシヒカリ	４月20日	320 本/㎡（18 本/株）	310 本/㎡（17 本/株）	300 本/㎡（16 本/株）
	５月　１日			
粒すけ	４月20日	460 本/㎡（25 本/株）	420 本/㎡（23 本/株）	

※（　）内は６０株／坪植えの時の１株当たりの茎数の目安
※疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります。

４．「ふさおとめ」「ふさこがね」は幼穂のチェック！

～穂肥の遅れに注意～

４月２０日植えの「ふさおとめ」は６月中旬頃から幼穂形成期を迎えます。穂肥の適期は幼穂形成期（出穂前 25 日）～出穂前 18 日（幼穂長 1 ㎜～10 ㎜）です。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク割合が増加し、食味の低下を招くので注意が必要です。また、「ふさこがね」の穂肥適期は出穂前 18 日（幼穂長 10 ㎜）です。どちらも適期施用を心がけましょう。穂肥の際は、「化成肥料 17-0-17」等の速効性肥料を施用しましょう。

表2　品種別の幼穂形成期での生育目標と穂肥の施用適期(栽植密度 18.5 株／㎡)

品　種	草　丈（㎝）	茎　　数			葉色（SPAD 値）	出穂前日数（幼穂長）
		砂質	壌質	粘質		
ふさおとめ	55 以下	570～620（31～34本）		520～570（29～31本）	4.0（35～38）	出穂前 25 日～出穂前 18 日（1 ㎜～10 ㎜）
ふさこがね	60～65 以下	450～500（25～27本/株）			5.0（38～42）	出穂前 18 日（10 ㎜）

農作業安全 草刈り機使用時、ゴーグル着用・周囲安全確認！　　食の安全安心 土壌消毒剤使用時、必ず被覆！

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

５．倒伏軽減剤について

昨年は長梅雨・曇天等から徒長し易い条件となりました。コシヒカリは、幼穂形成期頃の茎数が過剰となったり、草丈が 75 ㎝を超えると倒伏が心配されます。稲の生育状態に合わせて、倒伏軽減剤の散布を検討してください。また、大豆等からの復元田や倒伏の常発田においては倒伏軽減剤の散布をするようにしましょう。

表３．倒伏軽減剤の使用時期と目安

薬剤名及び 使用時期	効　果 発現場所	7 月 15 日頃 出穂の場合	7 月 25 日頃 出穂の場合	10a 当たり 使用量
ロミカ粒剤 （出穂 25～10 日前）	上　位 （2～3 節）	6 月 20 日 ～7 月 5 日	6 月 30 日 ～7 月 15 日	2～3 kg
スマレクト粒剤 （出穂 20～7 日前）	上　位 （2～3 節）	6 月 25 日 ～7 月 8 日	7 月 5 日 ～7 月 18 日	2～3 kg
ビビフルフロアブル （出穂 10～2 日前）	上　位 （1～2 節）	7 月 5 日～13 日	7 月 15 日 ～7 月 23 日	1000 倍液の 100 ﾘｯﾄﾙ散布 （散布ムラに注意）

６．イネクロカメムシ対策について

イネクロカメムシは斑点米カメムシ類と異なり、主に株元に寄生しイネの茎葉を吸汁します。県南から近年、県中央部でも見られ、発生が拡大しています。

加害されると葉先は黄変、捻転し、草丈は伸びず分げつが抑制されます。成虫は光沢のない黒色で体長８～１０ミリ、防除は箱処理剤または本田防除（６月下旬）で対応します。

被害葉と成虫

表４．イネクロカメムシ対策の主な本田防除薬剤

対象害虫	薬剤名	使用量(10ａ)	使用時期	使用回数	備考
カメムシ類	キラップ粒剤	3 kg	収穫 14 日前	2 回以内	湛水散布
	エルサン粉剤２	4 kg	収穫 7 日前	2 回以内	

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報　　令和４年６月

園芸野菜　病害虫防除情報

１. はじめに

今後は気温はやや低め（特に上旬）の予報となっています。また、梅雨入りして降雨が多くなると、害虫だけでなく病害の発生も懸念されます。防除が遅れると結果的に多発につながりますので、早めの防除を行いましょう。

２. ネギ（ネギアザミウマ）

（１）有効な薬剤系統が少なくなっています。下表の効果的な散布剤を中心に、ローテーション散布を行いましょう。
（２）朝、夕は株元付近にいて日中葉上に移動します。早朝、夕方の散布時は株元まで薬剤がかかるよう注意しましょう。
（３）ネオニコチノイド系薬剤（スタークル・ベストガード等）は定植時の粒剤使用を中心とし、ハモグリバエとの同時防除として使用しましょう。

○ネギ　ネギアザミウマ　防除薬剤

対象害虫	薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ネギアザミウマ（アザミウマ類）	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系	ベストガード粒剤	6kg/10a	定植時	１回
		スタークル顆粒水溶剤	50倍/0.5ℓ/1ﾄﾚｲ	定植前日～定植時	１回
	ジアミド系	ベリマークＳＣ	400倍/0.5ℓ/1ﾄﾚｲ	育苗期後半～定植当日	１回
	ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系	アグリメック	500～1000倍	３日前まで	３回
		アニキ乳剤	1000倍	３日前まで	３回
	ｽﾋﾟﾉｼﾝ系	スピノエース顆粒水和剤	2500～5000倍	３日前まで	３回
		ディアナＳＣ	2500～5000倍	前日まで	２回

３. トマト（コナジラミ類・アザミウマ類・葉かび病）

（１）コナジラミ類

県内ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生します。葉のすす汚れに加え、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（ＴＹＬＣＶ）を媒介する恐れがあります。両種が混在して発生しますが、多発するとどちらか一方に偏るケースも見られます。また、昨年は一部の地域でトマト黄化葉巻病が多発生しましたので注意しましょう。

（２）アザミウマ類

トマトでは葉の食害や果実に白ぶくれ症状に加え、トマト黄化えそウイルス（ＴＳＷＶ）、キク茎えそウイルス（ＣＳＮＶ）を媒介する恐れがあります。県内ではミカンキイロ、ヒラズハナアザミウマが主に発生します。ミカンキイロは葉裏、ヒラズハナは花（果実）へ寄生することが多いです。有効な薬剤が少ないため、同じ系統の薬剤の連用・多用は避け、ローテーション防除を行いましょう。

農作業安全 草刈り機使用時、ゴーグル着用・周囲安全確認！　　食の安全安心 土壌消毒剤使用時、必ず被覆！

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

〇トマト　コナジラミ類コ・アザミウマ類ア防除薬剤　マルハナ影響日数に注意※下記に記載

コ	ア	薬剤系統	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
〇		ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系	6	アファーム乳剤	2000	収穫前日	5 回以内
〇	〇			アグリメック	500～1000		3 回以内
〇	〇	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000		3 回以内
〇	〇	ｽﾋﾟﾉｼﾝ系	5	ディアナＳＣ	2500		2 回以内
〇	〇	ジアミド系	28	ベネビアＯＤ　※1	2000		3 回以内
〇		その他①	9B	コルト顆粒水和剤	4000		3 回以内
〇		その他②	4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000		2 回以内
※2	〇	その他③	UN	ファインセーブフロアブル	1000～2000		3 回以内

※1 薬害回避のためアミスターなど QoI 剤と混用、近接散布を避ける　※2 タバココナジラミのみ

〈マルハナバチ影響日数〉

アファーム乳剤：２日　　アグリメック：７日　　ベストガード水溶剤：１０日以上

ディアナＳＣ：１～３日　　ベネビアＯＤ：１日　　コルト顆粒水和剤：３～７日

トランスフォームフロアブル：２～５日　ファインセーブフロアブル：１日

（３）葉かび病（すすかび病防除も兼ねる）

感染から発病まで１４日以上かかる病害ですので、現在発病している葉の上まで感染している恐れがあります。すでに発生が見られる場合は下記治療剤を加えた防除ローテーションを行いましょう（ハウスでは日中の高温を避けて散布しましょう）。

〇トマト　葉かび病　防除薬剤

対象病害	FRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
葉かび病	M5	ダコニール 1000	1000 倍	収穫前日	4 回以内	予防
	M7	ベルクートフロアブル	2000～4000 倍		3 回以内	予防
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000 倍		3 回以内	予防・治療
		アミスター20 フロアブル	2000 倍		4 回以内	予防・治療
	1＋10	ゲッター水和剤	1000～1500 倍		5 回以内	予防・治療
	3	トリフミン水和剤	3000～5000 倍		5 回以内	予防・治療

4. サトイモ（疫病）

６月以降の長雨後（25℃以上、降雨続き）に増加する傾向がありますので、下記薬剤による防除を実施しましょう。サトイモは農薬が付着しにくいので展着剤も加用しましょう（野菜類・いも類登録があるもの：ハイテンパワー等）

〇サトイモ　疫病　防除薬剤

薬剤系統	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	特徴
QoI 剤	11	アミスター20 フロアブル	2000 倍	収穫 14 日前	3 回	予防・治療
—	21+27	ダイナモ顆粒水和剤	2000 倍	収穫 21 日前	3 回	予防・治療

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報

令和４年６月

果樹（ナシ）病害虫防除情報

ＪＡ全農ちば
営農支援部

1. はじめに

今年は開花時期に降雨が多く、その後も天候不順が続いたため、黒星病の感染好適条件が揃いました。４月中旬から芽基部病斑をはじめ、葉や果実への黒星病被害事例も多く見られています。千葉県の病害虫発生予報第２号においても今後の黒星病の予想発生量は「多」となっており、気象庁の今後の気象予報では、降水量は並、梅雨入りは６月上旬となっています。降雨が続くと黒星病拡大のリスクは高まりますので、防除タイミングを逃さないように十分に注意してください。また、カイガラムシ類、ハマキ・シンクイムシ類の発生時期にもなりますので、病気と併せて害虫対策も徹底しましょう。

2. 黒星病対策

【６月】黒星病　防除薬剤（輪紋病防除を含む）

６月上旬　：　ベルクートフロアブル　1,500 倍　（収穫 14 日前／5回以内）

６月中旬　：　フロンサイドSC　　2,000 倍　（収穫 30 日前／散布１回）

６月下旬（新梢停止直後）：　ストロビードライフロアブル【QoI 剤（ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ系）】
2,000 倍（収穫前日まで／３回以内）
+オーソサイド水和剤 80　1,000 倍　（収穫３日前／９回以内）

時期の目安に注意。果実肥大期に防除することが狙いです

さらに黒星病対策が必要な場合は、臨機でオーソサイド水和剤 80、又はベルクートフロアブル、又はベルクートフロアブル＋ユニックス顆粒水和剤 47（５月に散布していない場合に限る）を散布（回数に注意）します。また、治療剤を使用する場合も耐性菌対策のためにこれら薬剤を必ず追加しましょう。

【７月】黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

７月上旬　：　インダーフロアブル【DMI(EBI)剤】　10,000 倍（収穫７日前／３回以内）
＋ベルクートフロアブル　1,500 倍（収穫 14 日前／５回以内）

７月中旬　：　フルーツセイバー【SDHI 剤】　1,500 倍（収穫前日／３回以内）
＋オーソサイド水和剤 80　1,000 倍（収穫３日前／９回以内）

※輪紋病多発園ではフルーツセイバーの代わりにパレード 15 フロアブル【SDHI 剤】2,000 倍（収穫前日／２回以内）でもよい。

収穫期　：　トップジンM水和剤（輪紋病対策）　1,500 倍（収穫前日／６回以内）

オーソサイド水和剤 80 は果実に薬剤汚れが発生する可能性があるので、対策が必要な場合、展着剤まくぴか 10,000 倍を加用しましょう。また、泡立ち防止のためにまくぴかは最後に加えましょう。

農作業安全　草刈り機使用時、ゴーグル着用・周囲安全確認！　　食の安全安心　土壌消毒剤使用時、必ず被覆！

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

●梅雨期の散布タイミングに注意
梅雨期は薬剤の散布タイミングを逃しやすい時期です。天気予報に注意し、散布作業ができる日を逃さないように注意しましょう。
●殺菌剤散布時期と降雨
薬剤の残効が切れた後に降雨を受けないような防除が理想的です。残効の目安は約 10～14 日です。降雨が続いている場合は薬剤が流されやすく、病害も感染しやすくなるので、さらに薬剤散布間隔を短めにするよう意識します。また、薬剤散布の際は防除効果を安定させるために次の点に注意してください。
①発病した果そう基部、葉、果実は二次伝染源となるため、圃場外に持ち出して処分する
②薬剤散布を行うにあたっては、薬剤が十分にかかるように十分な散布水量（250ℓ/10a）で散布する。散布量が少ないと防除効果にムラが出てしまう。

3. ハダニ類

今後、梅雨が明けてさらに気温が高い日（30℃以上）が続くと、ハダニは 10 日で１世代が替わる速さで増加を始めます。梅雨～梅雨明け直前ごろからのカネマイト・ダニゲッターによる防除が基本ですが、園内の発生状況を確認し、必要に応じて時期を早める必要があります。

○ハダニ防除薬剤

時期	薬剤名	主な効果	登録内容
６月下旬	カネマイトフロアブル	サビダニ対策兼ねる	1,000 倍・収穫前日・１回
７月上旬	ダニゲッターフロアブル	殺卵・幼虫のみ	2,000 倍・収穫前日・１回
７月下旬	ダニコングフロアブル	殺卵～殺成虫	2,000 倍・収穫前日・１回

4. カイガラムシ類対策

薬剤が効くのは主に幼虫の時期です。そのため、カイガラムシ類の対策は各種の産卵時期が重なる６月の防除が非常に重要となります。散布のかけムラによる効果不足が発生しやすいので、枝の上側・園外周などの薬剤をかけにくい部分に発生が見られる場合には、直接散布するなどの配慮が必要です。丁寧な薬剤散布を心がけましょう。

ナシマルカイガラムシ
による被害果

○カイガラムシ類防除薬剤

時期	薬剤名	登録内容
６月上旬	ダーズバンＤＦ	3,000 倍・収穫 30 日前・３回以内
６月上～中旬（臨機）	コルト顆粒水和剤▲	3,000 倍・収穫前日　・３回以内
	トランスフォームフロアブル▲	1,000 倍・収穫前日　・３回以内
６月下旬	オリオン水和剤４０※	1,000 倍・収穫３日前　・２回以内

▲どちらか選択
主にコルトはチャノキイロアザミウマ、トランスフォームはアブラムシ類対策。また、どちらもカイガラムシ類対策も兼ねる。
※昨年度防除暦より変更点のため注意

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

ニンニク新産地づくりとしての取組み

ＪＡ全農ちば
営農支援部

1. 取組みの背景

国内のニンニク生産は、青森県、香川県、宮崎県、大分県、北海道などに産地があり、特に青森県を中心とした周年出荷体制になっています。また、輸入の割合も大きく、中国産ニンニクが輸入ニンニクの約 50%を占めています。一方で、関東では国内主要産地ほどの大きな産地が無いのが現状です。このような中、千葉県内にて新産地づくりを目指し、新規導入品目としてニンニクの生産実証に取り組んでいます。

農畜産業振興機構「ベジ探」（平成 27 年）

2. 千葉県に適した品種選定

ニンニクには大きく分類すると寒地系と暖地系品種があります。ニンニクは日長と気温に影響される作物です。特に、気温については、暖冬の年もあれば 11 月より寒さが本格化する年もあるため、年ごとに生育にバラつきが見られます。そこで、気温に左右されにくい品種を検討したところ、寒地系よりも熟気が早く、暖地系よりも熟期の遅い品種（中間地系品種）を選定しました。

3. 令和3年度の取組みについて

（１）圃場巡回

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、定期的に実施することはできませんでしたが、産地の生育状況の確認巡回を行い、今後の栽培ポイントを産地と共有しました。今作では、年明けからの低温で、平年と比べて生育はやや停滞していますが、今後日長が長くなるにつれて、生長していくものと思われます。また、前作までニンニクを腐敗させる春腐病が発生している産地が見られたため、５月頃までの防除徹底を呼びかけました。

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

（２）春腐病に強い品種を選定する品種比較試験

産地で使用されている品種は、千葉県の気候にあった中間地系品種ですが、産地課題の一つとして春腐病に強い品種選定が要望されています。そこで、成田市のＪＡ全農ちば営農技術センター圃場にて春腐病および品質について、産地で使用されている中間地系品種と比較する試験を行っております。試験結果を参考に今後の品種選定材料として活用していく予定です。

4. 産地での取組みについて

現在、県内のいくつかのＪＡにて新規導入品目として取り組まれており、生産されたニンニクは市場、直売所などに出荷されています。出荷に至るまでに様々な課題もありますが、今後も新たな産地づくりを目指して取り組んでまいります。

圃場風景

乾燥施設

荷姿（10kg）

出荷直前のニンニク

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報

令和４年６月

スマート農業ツールの活用

ＪＡ全農ちば
営農支援部　営農企画課

1. JA 全農が取組むスマート農業

スマート農業とは、ロボット技術やＩＣＴを利用し、省力化や精密化を図った農業生産を実施することです。スマート農業は、高齢化に伴う後継者や働き手の不足、栽培技術の伝承、気象の極端化による作業負担増加といった農業現場の課題を解決する手段の１つとして、注目が高まっています。

しかし、スマート農業には機械および施設費が高額で高コストであること、利用できる技術がまだ部分的であることといった課題があります。そのため、ＪＡ全農は比較的低コストで生産者が取り組みやすいスマート農業の普及に取り組んでいます。今回、普及を進めているスマート農業の中からいくつかツールをご紹介します。

2. 全農営農管理システム「Z-GIS」

（１）Ｚ－ＧＩＳとは

地図上の圃場の形に合わせて作成したポリゴン（圃場）と、使い慣れた方が多いＭｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌで管理する圃場のデータとを結びつけて管理するクラウド型のシステムです。「情報を見える化する」という点に優れており、これまで紙媒体で管理していた圃場情報をデジタル化して効率的に管理すること、クラウドの使用により１つのファイルを複数名で共有して活用することができます。

（２）活用場面

Ｚ－ＧＩＳは管理項目を自由に設定できるため、様々な場面で活用方法を検討することが　できます。ここでは、代表的な活用例をご紹介します。

ア．ダイコン生産部会のＧＡＰ管理で、圃場管理（所有者、栽培面積、品種、播種日など）に活用しています。広範囲に散在する圃場情報を効率的に管理することができます。

イ．水稲生産法人などの圃場情報を効率的に管理することができます。作業内容や場所の指示にミスをなくし、従業員の作業効率化に有効です。

ウ．作業の受委託を効率的に管理することができます。

3. 栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」

（１）ザルビオフィールドマネージャーとは

作物や品種、気象情報、人工衛星からの画像など、様々な情報をＡＩ（人工知能）により解析することで、最適な栽培管理を提案する新しい総合的な栽培支援システムです。栽培管理記録や計画はもちろん、その年の気象情報や品種などを考慮した予測結果を基に圃場毎の推奨作業を提案し、栽培管理の最適化を支援します。

また、全農営農管理システム「Ｚ－ＧＩＳ」とシステム連携をしています。Ｚ－ＧＩＳで作成した圃場台帳やデータをザルビオへ簡単に登録することや、ザルビオが行った生育予測等のデータをＺ－ＧＩＳに取り込んで効率よくデータをまとめることができます。

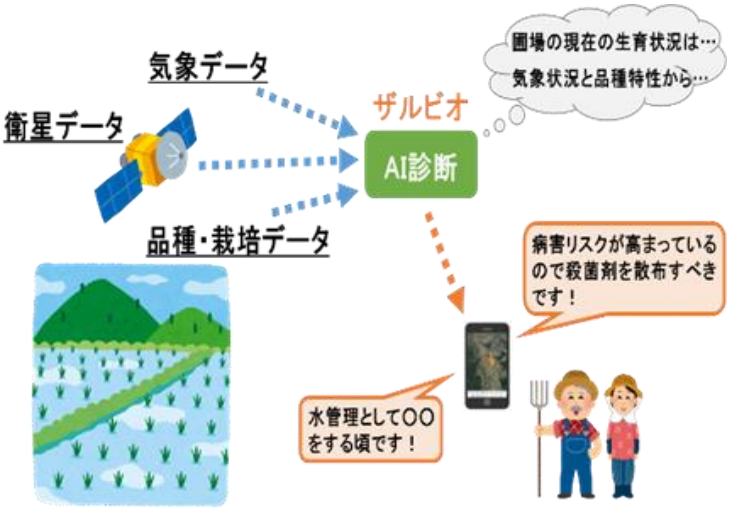
※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

（２）期待される活用場面

ア．栽培情報とザルビオによる予測結果をＪＡおよび生産者で共有することで、営農管理の効率化を期待しています。

イ．ザルビオの生育予測および病害予測を参考に栽培管理を行うことで、栽培期間中のリスクを低減し生産の安定化を期待しています。

ウ．ザルビオは人工衛星リモートセンシングで解析した生育状況地図を、定期的に取得することができます。取得した生育状況地図を参考に、追肥や基肥の精密化を図ることを期待しています。



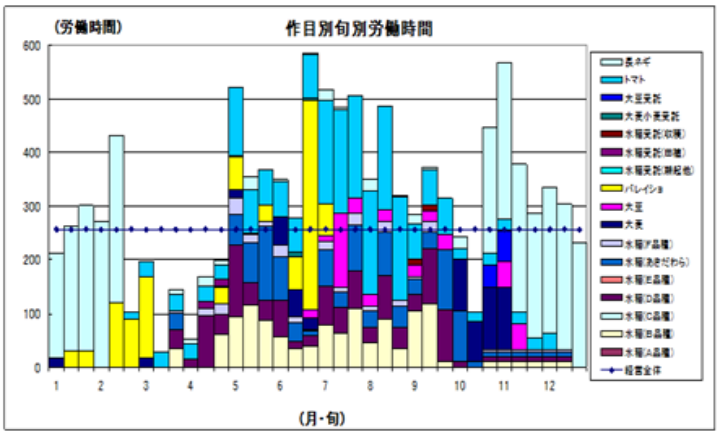
（３）現在のサービス内容

現在提供しているサービスは、水稲（①生育予測に基づく重要管理のタイミング提案、②病害発生予測による防除タイミング提案）、大豆（発生草種にあわせた雑草管理体系提案）です。取扱品目については順次拡大していく方針です。一方、現時点では予測精度に課題も残しています。JA 全農ではサービスの拡大と並行して、引き続き予測精度改善に取り組んでまいります。

4．営農計画策定支援システム「Z-BFM」

（１）Ｚ－ＢＦＭとは

労働力や作付け面積などの経営概況を入力し、作付け作目の経営指標から農業所得が最大となる農業計画案を作成するシステムです。



（２）活用場面

ア．農業経営改善のＰＤＣＡサイクルを実施する参考データとして活用し、農業経営の手取り最大化を支援します。

イ．新規就農者の経営計画を支援します。

5．さいごに

ＪＡグループは第 29 回ＪＡ全国大会（令和３年 10 月）で「持続可能な食料・農業基盤の確立」を進めるとしています。当県本部はスマート農業ツールを適切に活用し、生産者が持続的に営農を維持、発展できるよう取組みを進めてまいります。

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報

令和４年６月

安全な農作物生産の取組みについて
～食中毒対策～

ＪＡ全農ちば　営農支援部

1. はじめに

夏に向けて気温が高くなると微生物が増殖しやすくなります。特に病原性大腸菌（O-157）等による食中毒に注意が必要となります。消費者へ安全な農畜産物をお届けするために、石鹸を使用した手洗いを徹底しましょう。

2. 食中毒対策について

（1）石鹸を使って手洗いをしましょう！

ア．手洗い前（農作業後）の手は汚れがかなり付着しています。
イ．水洗いのみの場合でも、洗い残しが確認できます。
ウ．石鹸を使用した手洗いの場合、洗い残しがほぼありません。

手洗いチェッカーを使って、手洗い後の手の汚れを調べました！

ア．手洗い前（農作業後）　　イ．水洗い　　ウ．石鹸を使用した手洗い

（2）家畜ふん堆肥は完熟たい肥を使用しましょう！

堆肥が未熟なままだと病原性大腸菌等が残っている可能性が高いです。堆肥は作物や作業者に触れる場合があるため、適切に完熟化した堆肥を使用しましょう。

適切な家畜ふん堆肥管理

（１）被覆等を行い、堆肥表面温度を 55℃程度で数日間以上保つ
（２）切り返しを行い、堆積物全体の温度が上がるようにする
（３）堆肥を出荷調整場へ持ち込まないように、場所に合わせて履物を履き替える

日頃からの小さな衛生管理が産地の食の安全・安心を守ります！！！

農作業安全 草刈り機使用時、ゴーグル着用・周囲安全確認！　　食の安全安心 土壌消毒剤使用時、必ず被覆！

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば